

避難計画・安定ヨウ素剤の事前配布等に関する申入れ

スクリーニング場所の綾部PAは入口と出口が同じ。バス・自家用車を除染してもまた汚染  
→「改善してほしいと福井県とおおい町に伝える」

避難計画はあいまいなまま

車両一時保管場所での乗り換えバスは、福井県が準備？兵庫県が準備？



2月5日、川西市役所にて、避難計画や安定ヨウ素剤の事前配布等を求めて申入れを行いました。市議会の谷正充議員、川西市民を含めて兵庫から4名、大阪から5名で、10名が参加しました。市からは、総務部副部長（危機管理担当）の曾野雅弘さん、総務部危機管理課長の藤川成希さんの二人が対応され、市役所2階の会議室で、予定の2時間を少し超えた申入れとなりました。今回の申入れは、谷議員のご

尽力によるものです。

川西市は、大飯原発から5km圏内の大島地区（約770名）、30km圏内の佐分利地区（約1,600名）と本郷地区（約1,800名）の避難先となっています。合計約4,200名の住民の避難所は、川西市内19の小・中・高校になっています。

今回初めてプロジェクタを使い、スクリーニング（放射能汚染の検査と除染）場所の綾部PAの問題点等について説明しました。質問・要望書は1月21日に提出していましたが、それを受けて、福井県やおおい町、兵庫県に問い合わせをして回答を準備したとのことでした。担当者は「市民を守るのが第一の役目」「避難元のおおい町と連携を図る」と力説していましたが、原発事故の危険性、スクリーニング場所の問題、要援護者の人数把握や受け入れ施設の確保など、具体的な問題はほとんど把握しておらず、避難計画はあいまいなままでした。

関西広域連合が避難受入れのマッチングを作成してから4年以上が経ち、市の担当者も変わっており、原発の避難計画については知らないことも多いとのこと、時間をかけて説明しました。いくつかのポイントを紹介します。

質問・要望書 [http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi\\_q\\_yobo190121.pdf](http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi_q_yobo190121.pdf)

資料 [http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi\\_siryoy190121.pdf](http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/kawanisi_siryoy190121.pdf)

#### ◆危険区域にある2か所の避難所のこと、おおい町に伝えていなかった

川西市の避難所19施設の内、2か所（※1）は洪水の危険区域にあります。担当者は、川西市の防災マップはおおい町に渡していると回答しました。しかし、よく聞くと、マップを渡しただけで、おおい町住民の避難所が危険区域にあることは伝えていないとのことでした。また、

仮に水が浸水しても体育館の2階フロアで受入れができる等と、驚くような回答。80km程離れたおおい町から避難してきた時に既に浸水していたら、どうやって避難所に入れるのでしょうか。この2か所の避難所の件については、おおい町に伝えることになり、また、危険区域にある避難所について改善しなければならない所は、代わりになる場所を探していかなければならないとも話していましたので、改善を求めました。

※1：危険区域にある2か所の避難所

- ・市立多田小学校：佐分利地区の岡安 184名の避難所
- ・市立川西小学校：大島地区の宮留・南浦 229名の避難所

◆スクリーニング場所の綾部PAは入口と出口が同じで、除染してもまた汚染される。車両が出る時に「再度検査をする」と福井県から聞いている



おおい町住民が避難時に使用するスクリーニング場所は、高速道路の舞鶴若狭自動車道の綾部PAから入った球場横の駐車場です。しかし、左図のように、この場所は入口と出口が同じで、バスや車両を除染しても、出る時にはまた汚染されてしまいます。これでは、川西市に汚染が拡大されることになります。国のマニ

ュアルでも、入口と出口は別にして一方通行が可能にすることを求めています。マニュアルにも違反するため、綾部PAはスクリーニング場所から除外すべきと求めました。綾部PAの具体的な状況は知らなかったようで、熱心にパワポの図に見入っていました。

この問題については、当初「福井県が責任をもって対応すべき」と述べていました。そして、福井県に問い合わせたら、綾部PAを出る時に、「再度検査をすることになっている」と聞かされたそうです。再度の検査をどこでやるのかと問いましたが、具体的なことは聞いていないそうです。狭い綾部PAでは、再度検査をするような場所ありません。

担当者は「福井県からの説明をしっかりと聞いていなかった。もう1回検査すると聞いたので、川西市にはきれいな車が来るのだと思っていた。細かい所まで検証していなかった」「完全に除染して来てもらうのは大前提。川西市民を守ることが必要なので、方策として検討するように求めていかなければならない」と語り、「改善してほしいと福井県・おおい町に伝える」と約束しました。

#### ◆「車両一時保管場所」での乗り換えバスは「福井県が準備する」？

川西市には、おおい町から避難してきた車両の保管場所はないとのことでした。そのため、自家用車で避難してきたおおい町住民は、三木総合運動公園等の「車両一時保管場所」でバスに乗り換えて、川西市の避難所に到着することになっています。

自家用車からバスに乗り換える場合、乗り換えバスの手配は「福井県がバス協会と準備する。足りない場合は関西広域連合と相談することになっている」との回答でした。これは兵庫県に確認したとのことでした。そうすると、福井から来る乗り換えバスも汚染される可能性が高く、運転手だけが乗った乗り換えバスも綾部PAでスクリーニングするのですかと問うと、そのようなことは考えたこともなかったようで「そうだな、分からない・・・」と答えるだけでした。

また、関西広域連合のガイドラインでは、乗り換えバスは「受け入れ府県・市町村が手配する」と書かれていると指摘すると、首をかしげていました（※2↓）。

#### 6 車両一時保管場所 (略)

- 車両一時保管場所から避難所又は拠点避難所への移動手段については、避難先府県・市町村が協力して手配・案内する。  
「原子力災害に係る広域避難ガイドライン」関西広域連合 21頁より

他方、バスで避難してきたおおい町住民は、「車両一時保管所」で別のバスに乗り換えることはなく、おおい町から乗ってきたバスのまま川西市の避難所に入ることになっているそうです。

しかし汚染検査は、タイヤとフロントガラスだけの簡易検査で、汚染が高いと思われるバスの屋根やエンジンルーム等の検査はありません。検査の基準値（※3）も高く、「基準値以下」となっても、そのまま川西市に入ってくれば汚染が拡大されてしまいます。バスが乗り換えなしで川西市に入ってくれば、避難所周辺はホットスポットになる危険もあります。

※3 検査の基準値  $120\text{Bq}/\text{cm}^2$  ( $40,000\text{cpm}$ ) は、小児の甲状腺被ばく線量で  $300\text{mSv}$  に相当し、IAEAの安定ヨウ素剤服用基準の6倍。また「放射線管理区域の外に物を持ち出す基準 ( $4\text{Bq}/\text{cm}^2$ )」の30倍に相当する高い基準です。

また、関西広域連合の計画では、スクリーニング場所でバスを乗り換えることになっています。最初の回答では「計画の作成時期が違う」とだけ形式的に答えていましたが、「これも実際とは違うな・・・」と不思議そうな表情でした。

このように、避難計画は確定しておらず、実効性のないことが具体的に明らかになっていきました。



#### ◆在宅の要援護者については、受け入れる人数さえ把握していなかった

おおい町UPZ内の在宅の要援護者は、692名と公表されています（内閣府「大飯地域の緊急時対応 64頁」）。おおい町の避難先は川西市と伊丹市ですから、川西市では何人の要援護者を受け入れることになっているのか質問していました。これについては「要援護者は川西市には避難してこないと思っていたが、おおい町に確認して違っていたことが分かった」と答えながらも、人数については尋ねておらず把握していないとのことでした。人数や様態等がある程度

把握していなければ、体育館の避難所から福祉避難所への移動等も検討できません。「避難元との連携」と口ではいいながら、基本的なことも把握していないのが実態でした。

#### ◆安定ヨウ素剤の事前配布は検討していない

川西市は若狭の原発から約 80km の位置にあり、兵庫県が 2013・2014 年に実施した原発事故時のシミュレーションでは、1 才児の 7 日間の甲状腺被ばく量は約 100mSv にも達していません（高浜原発事故時 99.3mSv、大飯原発事故時 111.9mSv）。I A E A の安定ヨウ素剤服用基準 50mSv の 2 倍にもなるため、事前配布を求めました。

市の回答は、国や兵庫県のマニュアルでは「屋内退避」となっているので、事前配布も備蓄も必要はないというものでした。参加者からは「篠山市は独自に事前配布を実施しているので、市独自で判断してほしい」「市民の安全を守ると強調されているのだから、事前配布は実施してほしい」等の発言がありました。担当者は、「篠山市の資料を見て、副作用が確率的に低いことは確認している」と述べ、「I A E A の服用基準を超えている予測が出ているのに備蓄も必要ないとしていることについて、県に確認する」とのことでした。

火山灰の問題や、関電が中間貯蔵の県外候補地を示すという約束を守れなかったため、原発の運転を止めるよう表明してほしいという要望については「国政の課題なので、国に意見する立場にはない」と答えるだけでした。

#### ◆回答がなかった点等について、改めて回答をもらうことに

最後に、回答がなかった点や確認点について、改めて回答をもらうことになりました。必要があれば再度話し合いの場を持つように求めました。

- ・危険区域にある 2 か所の避難所については、おおい町に伝え、その結果どうだったか
- ・綾部 P A から出る前に再検査という話だが、どこで再検査するのか
- ・綾部 P A については「改善してほしいと福井県とおおい町に伝える」とのことだったが、その結果はどうだったか
- ・車両一時保管場所での乗り換えバスは、避難元と避難先のどちらが準備するのか
- ・おおい町の在宅の要援護者で、川西市が受け入れる人数は何人か
- ・安定ヨウ素剤の I A E A の服用基準を超えるシミュレーションが出ているのに、備蓄も必要なしとしている点について兵庫県に確認した結果はどうだったか

「おおい町との連携が必要」と何度も繰り返していましたが、要援護者の受入れ人数も確認しておらず、いろんな点で連携がとれていないことが明らかになりました。また「図上訓練をもっとやるのがいい」とも話していましたが、乗り換えバスをどちらが出すかもあやふやな状況で、いくら図上訓練やっても解決にはならず、訓練の前提をはっきりすべきと伝えました。

避難計画に実効性がないことが明らかになったのですから、再稼働に反対してほしいと強く要望しました。

2019 年 2 月 8 日 避難計画を案ずる関西連絡会参加者一同